

随 想

教職 27 年の今日を想う

岡 本 正 三



人間はとかく偏見に陥りやすいし、また感情にも走りやすいものである。以下記すところはこれらの点について十分に注意したつもりである。まず私事になつて恐縮であるが、俄国一先生ご健在のころ、私は若輩の身で本協会の編集理事の席を汚がしたことがある。幸いに、佐藤忠雄博士その他の方々のご鞭撻ご指導を得たものの、協会の経済事情不如意の折ではあり、当時としては贅沢な講演前刷をつくつて協会の各位にご迷惑をかけたことは今も汗顔を覚えるものがある。当時に比べて今日の協会は分科会報告などの立派な臨時増刊号もしばしば発刊せられ、その活潑な活動は往年のそれと隔世の感がある。これはひとえに歴代の会長初め協会幹部各位のご尽力の賜と深く敬意を表するとともに会員の一人としてまことに同慶にたえぬことである。今後も協会のますますご発展あるようにと祈る次第である。

さて、私は戦前10年、戦後17年を学校にこもり、近頃は健康の不如意も手伝つて井中の蛙のように教職を守るに精一ぱいというところである。次に私のささやかな感想と愚見を述べて責をふさがしていただくこととする。

先進国、後進国の区別なく、私たちの生活の周囲にはいわゆるアンバランスが非常に多い。人工衛星を打ち上げて世界を驚かせているソ連の一般大衆の生活はそう裕福とはみられない。そして地上にアクセクする人間の社会のアンバランスは後進国になるほどひどいようである。わが国は中進国というべきか、先進国という資格ができたのか知らぬが、道路、交通、住宅、厚生、医療、そのほか職種による所得の格差など、どれをとつてみてもバランスがとれているとはいえない。工業界は設備投資の抑制で急ブレーキをかけられ、設備過剰の声さえきかれるほどである。経済界のことはきわめて困難な問題のようであるが、何とかしてもつと定常的成長をさせることはできぬものだろうか。これがまた需給関係のアンバランスによるものであり、政治の貧困の延長ともいえそうである。社会の各方面のバランスの調整は今日ほど緊急を要することはないといえよう。

一方においては不均衡をつくりだす社会の要素もある。それは人口の都市集中の激化や、好むと好まざるとにかかわらず技術的な日進月歩の革新があることなどである。今日の学術的技術的発展のテンポは昔日の比ではない。これを一日でも等閑視するときは石炭業界の例にみるごとき社会不安を招来することになる。鉄鋼業界とて性格が違ふとはいへ、安泰であると誰が断言できようか。原料、その輸送、それから加工につながる生産設備、技術的学術的面の独創的研究における拡充、強化はいよいよ必要である。

このことを私は職務がら人、その組織、および人間関係から考えたい。これらは社会に教養の高い有能な青年を送り出す大学の使命と密接に関連していると思うのである。それならば今日の新制大学はこの目的にそつて、バランスがとれているであろうか。勿論、新しい学制下で立派な青年が数多く養成されてはいるが、物足りない面も少くないと思う。それをここに少しく記すことを許していただきたい。

* 本会評議員、東京工業大学教授 工博

激烈な入試を突破して入ってきた幸運にして有能な青年は4年後には常に殆んど100% 大学を卒業して落伍するものはないようにでき上っているが、それは見方によつては大学教育の軽視につながるものであり、うぬぼれの強い批判的傍観人をつくり出す傾向がないとはいえない。勿論、人間の性格や行動には多面性があるから一概に割り切つた見方のできるわけではないが、そうした拙い面の強く現われた者も卒業してゆく。むしろ海外の例にみるように入試は寛大であり、入学後の訓練こそ肝要であるべきはずのものであるのだが、何とかならぬものだろうか。また、今日の大学は一般教養科目と専門学科との同居であり、そのどちらが主従ともいえないようであるが、結果の何%かはどつちつかずの専門学科を軽視する机上論人をつくつていようである。それは専門学科の実験設備があまりにも貧弱であるのも原因していると思う。従つて多数の学生が便利にかつ熱意をもつて実験のできるような設備を大学内につくることが急務であると考えらる。

さて、また会社は卒業する学校がどこであるかをみて学生を採用する傾向が強い。それもわれわれの大学の卒業生は往々にして無試験で採つて下さる。有難いようでもあるが、一般に学校と卒業生とは同一物ではないはずであり、よい大学の卒業生が必ずしもよいとはいえない。近頃は大学に入学した者のうちには当然卒業する権利があるような錯覚を起すものもないとはいえないのであるから、採用について適当に試験をすることは、学校の教師の教育を側面的に援助して下さることに効果があると考えらる。また、採用に際し卒業論文のテーマを質問されるよりは、卒業研究をいかにやり、どんな考え方をもっているかを質問されるのがよいと思う。論文のテーマは決つたが、全く研究の方は未着手であり、そのテーマは紙とペンとをもつてつくるもののように取扱い、内容を具体的に結実させようとする努力が少いように見受けられる学生もある。一体、教師が学生に与える研究のテーマは単なる思いつきではない。それは一種の勘からくる問題であることもあるが、その勘なるものは不断の努力と常識の蓄積と経験とから引き出されたものであり、多くのとき偵察研究として迅速かつ確実な実験を必要としているのであつて卒業近くまで放置すべきものはまず無いであらう。

大多数の学生は卒業後の就職先や収入の多少に対して絶大な熱意を示す。その気持は私にもわかるのであるが、学生としての仕事の方を後廻しにするのは教育の軽視であつて、自主積極性あるべき学生のとる道ではあるまい。

誰かがいつたように、近頃の青年のうちには個人としての存在と世界とはあるが、家族、社会、祖国という方の観念が薄いものがある。そして自由は過剰気味であるが、責任観や義務観は少なくなつたようである。当然と考えられることでも、それが命令の形で出れば反発をする者もある。また、自分は先生を適当に利用するのだといつてはばかりでない者もいるほどである。

これは戦後のバランスのとれていない教育の問題であると思う。上に述べたことをする学生に接すると、一般教養はどこに行つたかといいたくなるし、専門の仕事の夢はどこに行つたかともいいたくなる。こうした現状の一面を批判的に記すのはあるいは当りさわりがあることかも知れないが、放置できる問題でもなさそうであり、諸賢の一考を煩わしいと思う。

来年度の文教の重点施策は理工系学生の増募や多数の高専校の新設に決まるらしいが、道徳的なしかも教育内容に対する熱意のあるそしてきめのこまかい配慮が欲しいものである。何を均衡のとれた教育といふかという点にも議論はあるが、技術教育の実質効果のあがることを念願して、敢て憂うべき教育の一断面を記した次第である。